

まつやまNPO サポセン だより

2011

冬



P2~7

NPO OF THE YEAR受賞「子育てネットワークえひめ」さんに聞く！

P8~11

コラム 新しい社会のかたち「地域包括ケア」ってなんだろう？

P12~13

コラム まつやま市内の被災者支援 交流会を開催しました！

P13

PR あなたの広報力をグ〜ンと高める「伝えるコツ」講座を開催します

P14~15

コラム 会計のワンポイントアドバイス

【発行】

まつやまNPO

サポートセンター

NPO OF THE YEAR受賞「子育てネットワークえひめ」さんに聞く！

「みんなが一番すごいと思っているNPOはどこか！？」

9月23日に開催した市民活動実践者交流集会「まつやまりーダーズ★サミット」で、第1回NPO OF THE YEARに選ばれたのは、衣山で親子の居場所づくりを行っている、NPO法人「子育てネットワークえひめ」さんでした！

今回のサポセンだよりでは、代表の山本さんに活動のコツをインタビューしました。

❖ 1 子育てネットワークえひめとは？

特定非営利活動法人子育てネットワークえひめは、衣山に事務所を構える子育て系のNPOです。子育てひろばの運営、会報誌「こねっと通信」(10000部)の発行、えひめのびのびどっとこむサイトの運営などを手掛けており、愛媛県内における子育て支援活動の代表的な団体です。

<アクセス>

松山市衣山1丁目221-1

TEL 089-917-8211 FAX 089-917-8218

WEB <http://www.conet-ehime.or.jp/>

※駐車場あります。

※伊予鉄衣山駅下車 北へ徒歩5分



事務所遠景



NPO OF THE YEARの
トロフィーを
飾ってくれていました



カワイイ看板がかかっています

❖ 2 「これでもお嬢様学校に入ってたんです(笑)」



やまもと ゆみこ

代表の山本由美子さんは、もともと福岡県出身。幼稚園にお勤めで、結婚して松山にされました。その後出産し、自分の子育てが始まった時、大きな不安を感じたといいます。

「自分が幼稚園に勤めていても、いざわが子となるとどう育てたらよいのか全く分からないし、不安なん

ですよ。友達もいないし、今のように児童館も多くなければ、子育て支援のサービスも少なかった」

ある時、隣に住んでいた方から「育児サークルがあるから行ってみなさい」と声をかけてもらったことがきっかけで、松山での子育て支援に飛び込むこととなりました。

そんな山本さんも、子どもにかかわるNPOを運営をするなんて、夢にも思っていなかったそうです。

「実は私自身は、中高一貫教育のお嬢様学校に通っていたんです。親が女の子らしいしつけをしたいと思っていたので。でも、小さい頃は木に登ったり、よそのうちの屋根に登ったりしてかなりおてんばだったんです。だから矯正しようとして入れられたんですね(笑)」

「そこではまあ、おとなしくしていて、大学に進学する際、法律に関わることを勉強しようと思っていたんですね。ただどうまういなくて…それで、高校が進めるままに幼児教育にかかわる学科に進学しました。だから、幼稚園の先生になろう…なんて気は全然なかったんですよ。それでも、今考えれば、高校最後の春休みに大きな転機が訪れているんですね。」

親戚の結婚式で司会の方がとてもステキで、アナウンサーの仕事もいいなと思ったんです。それで高校生ながら、その方が所属するイベント会社を訪問したところ、「子ども向けのイベントあるから、手伝ってみないか」とチャンスをもって…アニメのキャラクターのイベントとかで、子ども相手に必死で仕切ったりして…たぶん、それが子どもに関わることへのきっかけになったんだと思います」

❖ 3 「いつの間にか、リーダー役になっていたわけで」

その後、山本さんは結婚して松山に。初めての子育てに不安を感じ、当時あった子育てサークルに参加を始めます。

「初めて行ったら、子どもやお母さんたちが何名かいて、それで子どもが泣きはじめると、よその子でも近くにいたお母さんがあやしてあげるんですね。それがすごくステキだなんて感じて、子育てサークルにのめりこんだんです」

やがて、持ち前のリーダーシップと幼稚園での経験が活かされ、イベントのお手伝い役から企画係、そしてやがてはリーダーにまで成長していきます。

「参加者がどんどん増えて、スペースが狭くお断りをしなきゃいけなくなったんです。これじゃかわいそうだなと思って、助成金をとって大きな会場で交流会をするようになりました。」

こうしたサークル活動を続けていたところ、お子さんが成長したので、山本さんもサークルを卒業することになりました。しかし、サークルは活動が大きくなっていたので、サポーター役が必要になっていました。そこで山本さんたちは、ボランティアグループを結成し、育児サークルのお手伝いを始めます。

「専業主婦だったので、サークルのお手伝いをしてランチ食べて…楽しかったですよ。でも、あちこちの育児サークルから声がかかるようになって、それで毎日毎日お手伝いが始まって。わたしは良かったんですけど、他の仲間たちが、子どもの進学や塾通いのためにパートをしなきゃいけなくなって、だんだんメンバーが少なくなったんです。それでさみしいな～と思っていたところへ、NPOで起業！という風が吹いてきたんですね。メンバー20名ぐらいで一か八かやってみよう！ということではじめました。」

ところが、夫には「専業主婦がなにはじめよん？」みたいに言われて、カチンときて。主婦でもやったらうじゃんか～！みたいな気持ちでスタートしました」

自宅を事務所にして、会報誌の広告料を収益源としたスタートが平成13年のことです。



設立10周年のパーティにて。
OGも多数参加されました。



こねっと通信創刊号

❖ 4 「のんきに飛行機に乗れないな」と思った瞬間でした

その後、商店街での育児スペース運営をはじめたのですが、財源となる事業の目的とやりたいことが合わずに失敗。本町に事務所を移転し、公民館等での育児サークル運営や、会報誌の営業を積極的に進めました。

最初の3年間は収入が少ないから、ボランティアでみんな頑張ろうと、一所懸命、運営に努力した結果、ついに国から委託事業を受けるようになりました。その時、山本さんは「ボランティア活動の代表」から「事業主」への変化を覚悟したと言います。

「国と契約書を交わして仕事をするわけですから、一定の成果を出さないといけない。このことを悟った時、『あ、もうサークル感覚じゃだめだ』と思いました。」

それ以前にも、今までボランティアで来ていた仲間に、「明日からお金を払います」という時もすごいプレッシャーを感じたそうです。単に時給を決めてお金を払うだけではなく、それを永続的に続けるわけですから、「どこからお金をもってこようか」など、色々考えるようになった時期でした。ちょうどその時、東京に飛行機で行こうとしていた山本さん



さんは理事にメールで、「もし私に何かあったら、県の スタッフミーティングの様子仕事はまだお金を使っていないので、すぐに返還して、こねつとを解散して」と思わず伝えていました。

それも、以前からお付き合いのあった社長さんから「社長は自分が何かあった後の事まで先に手を打たなければいけない」と聞いていたからだそうです。

❖ 5 「解散の危機は…もちろん、ありましたよ」

こうした意識の変化は、山本さんを大きく成長させました。また、仕事が増えるほど人も多くなり、団体内の人間関係にも注意を払うようになりました。一時期、こねっとでは、本町の事務所だけでなく、三番町に店舗（木のおもちゃ屋さん）をもっていたことがあります。

そこには山本さんが詰めていたのですが、そのために事務所と知らない間に距離ができていたのです。

「特にどういう問題があったり、もめごとがあったわけではないんですけど、距離があるとなんとなく、行き違いやコミュニケーション不足が起きてきて、ぎくしゃくするようになったんです」

「だから今は、日頃のちょっとした無駄話でも、積極的にするように心掛けています。その人がどんなことを考えているか、何が大変なのかを知ることによって、うまくつなぐように。それに、仕事以外の「支えられていること」があれば、みんな熱意をもって働いてくれるんですよ。」



木のおもちゃコーナー

しかし、そんな山本さんを最大の危機が襲います。

それは、木のおもちゃ屋さんの大きな赤字でした。子育て広場を開設するための資金を投資して経営権を購入したおもちゃ屋さんが、さっぱり上手くいかなかったのです。

「何せ素人でしたからね。それに、もともと儲かっていないと聞いていましたし、ひどかった。仕方がないから、私個人のお金を出して…そしたらそれが他の理事にばれて(笑)。

相当みんなで話し合った後、「山本さんの出したお金はこねっとが支払う」ことになり、経営が苦しくなったんです。理事たちは、今までもらっていた給与がゼロになりました」

さらに追い打ちをかけるように、「子育て広場事業」が募集となり、応募するかどうかを決めなければならなくなりました。応募をするにしても、採択されるかどうかわからないのに、事前にスペースを確保しておかねばならない(事務所を借りておく必要がある)というハイリスクな条件が課せられています。

「そんな凄いリスクを背負うぐらいなら、もうやめよう、解散しよう、私が出したお金はいらないから、これ以上無理はしたくないと話をしました。県民活動推進課に解散手続きについて相談したくらいなんですよ」

それでも理事たちから「何のためにこねつをはじめての!」と叱咤され、なんとか知り合いを通じて物件を貸してもらい、子育てひろば「くーふぁん」を開設することとなりました。



子育てひろば「くーふぁん」の様子。ひろびろしています。

❖ 6 「お互いに『辞めるまでは支える』って言ってます」

現在ではスタッフ20名を数え、子育て広場、おもちゃ屋さん、事務所スペースと50坪ほどの一体型の事務所をもつようになった山本さんですが、最近は子どもたちとふれあう機会が取りにくくなって、少しさみしいそうです。

「いつからか、自分の仕事が資金調達になったのだけど、それは代表として果たすべき仕事なんだと思うようになりました。仕事は探せば案外ある。行政機関等の担当者とコミュニケーションを取り、よく話し合うことが大切。各自治体の考え方や感触を聞いて、仕事を作ることできる。そして、自分たちがやりたいな、やったほうがいいなということをきちんと調べて提案するようにしています。」

最後に「他の理事とはお互いに、あなたが辞めるまでは私も辞めず、互いに支え合うと言っています。だから、あと10年はがんばります」とのお言葉を頂きました。

NPO OF THE YEARを受賞した理由は、山本さんの仲間作りと、辞めないで続けたいというこの団体の姿勢を応援したいという他のNPO団体の皆さんの熱い思いに支えられているのかもしれない。



コラム 新しい社会のかたち「地域包括ケア」ってなんだろう？

いま、介護の業界を中心に「地域包括ケア」という新しい考え方が研究されています。これは厚生労働省が進めている、地域での高齢者福祉を、介護施設や介護事業者だけでなく、より多くの関係者で支えていこうという仕組みです。

わたしたち市民活動にかかわる団体も、このしくみの中では大きな役割を占めています。そこで今回は、この新しい社会のかたちについてご紹介したいと思います。

❖ 1 地域包括ケアって何？（高齢者のケアだけではありません）

● 高齢者が3人に1人の時代がやってくる？

厚生労働省の研究では、2025年には全人口の26.5%が75歳以上の高齢者になる、といわれています。団塊の世代が高齢者になる、ということです。さらに、65～74歳までの人口割合も14%程とみられており、合わせると40%近くが65歳以上の社会になるという予想がなされています。

この高齢者の増加は、首都圏などの都市部を中心に著しい影響が出るとみられています。私たちの住む愛媛県では高齢者人口自体の増加はあまり多くありませんが、割合的には同程度以上になるとみられています。

また、世帯割合でみると、35%以上が単身で暮らすようになり、子どもと同居する世帯は大幅に少なくなるとみられています。その結果、2005年現在の調査によると、全国で112.5万人が介護職員として働いていますが、2025年には倍以上の最大255万人が介護サービスに従事している社会がやってくるとみられています。

● みんなが支え合う環境作り

そのような状態では、介護施設や介護職員だけでは十分な介護を行うことができなくなると考えられています。そこでみんなが支え合って、地域の色々な課題をサポートする仕組みが必要となってきます。それが「地域包括ケア」の考え方です。

地域包括ケアでは、従来のように介護職や医療職だけでなく、弁護士や司法書士などの法的サービスの提供者や、社会福祉士、民生委員などの地域資源のコーディネーター、地縁組織によるボランティアや、NPOなどが力を合わせて、子どもから高齢者の安全な暮らしをサポートしていくことになります。



●生活を支える5つの視点

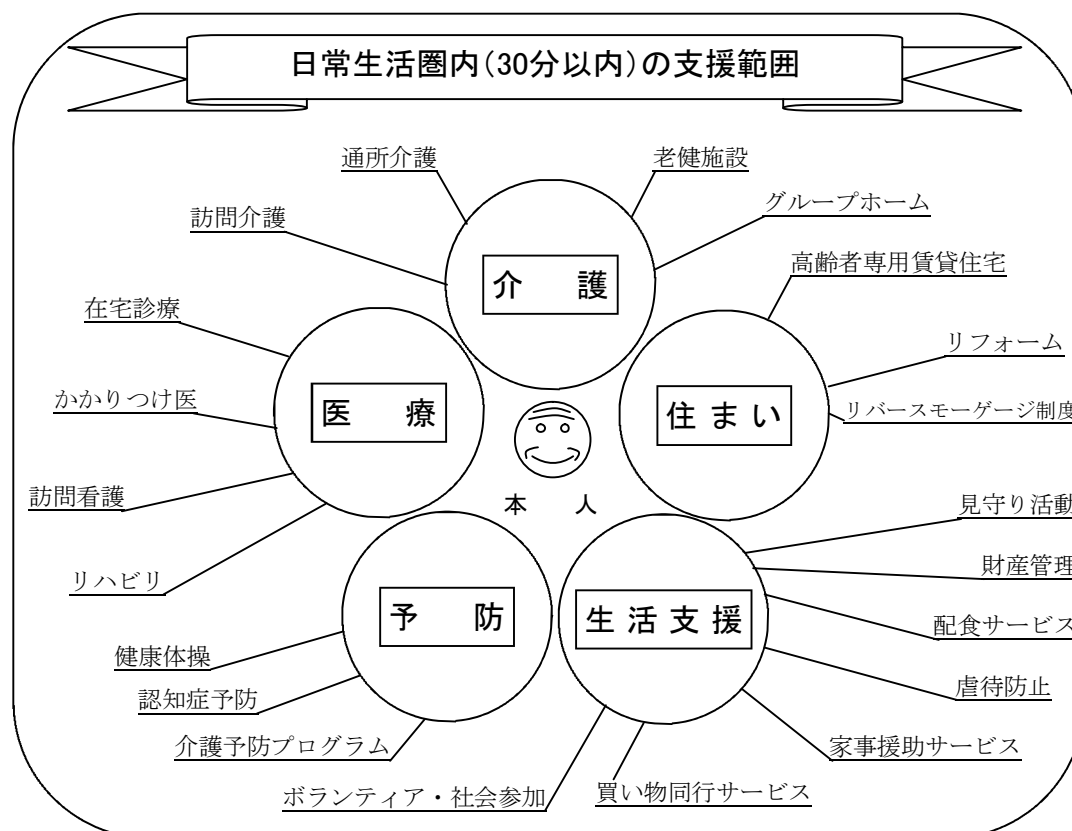
地域包括ケアでは、みんなが役割分担をするにあたり、5つの視点を設けています。

この5つは、一人の高齢者の生活を支えるために、あらゆることをサポートするように考えられています(そこで、包括ケアという言葉になるのです)。

- ① 介護 ～身体の補助や日常の世話などのサポート
- ② 医療 ～様々な病気やケガの手当て、リハビリなど
- ③ 予防 ～身体的、精神的に健康な高齢者になるための活動
- ④ 住まい ～高齢者が安心して、できるだけ自宅で暮らせる環境作り
- ⑤ 生活支援～家事、買い物などの日常生活と、居場所作り

●エリアは「30分以内で駆け付けられる範囲」

さらに、基本的な活動範囲の単位は、日常生活圏域として30分程度で駆け付けられる範囲が想定されています。これは具体的には中学校区であるとされています。自治体によっては小学校区単位としているところもありますが、概ねそのくらいの範囲の中で、ケアできる体制を作ることが求められています。



❖ 2 NPOはどうかかわるの？

これだけ聞くと、「介護系のNPOしか関係ないじゃない」と思う方もおられるでしょう。ですが、他の分野のNPOにも、この考え方に基づいたこれからの活動展開が求められてくるとみられています。

●【子ども分野】多世代の居場所作りや介護職員の子どもの預かりサービス

高齢者が増え、子どもの少なくなる未来では、より子どもが大切にされる社会となり、子育て分野の活動はますます盛んになるでしょう。それに加えて、子どもと高齢者が一緒に過ごす居場所機能が求められたり、介護職員として働く家庭のサポートサービスなども、事業として求められてきます。

●【環境・文化・国際分野】高齢者向けのアクティビティ・サービス

環境や文化、国際活動を行うNPOには、高齢者を対象とした様々なアクティビティ(生活をよりよくするための体験活動)の開発が求められてきます。元気な高齢者が生活を楽しむことのできる社会作りのために、文化的な要素は欠かせないものだといわれています。

●【人権・経済分野】地域包括ケアの直接の担い手

人権擁護や経済的支援、消費者保護を掲げる団体は、地域包括ケアの中で、虐待防止、住まいのケアや生活支援、法的な養護など重要な役割を担います。そのため、この分野で活動する団体は、地域包括ケアの直接の担い手になることが求められます。

●【障がい分野】高齢社会化に伴う障がい者の増加の支え手

障がい分野で活動している団体は、従来ケアの対象としてきた障がい者の高齢化に加え、それまで何の障がいもなかった方が高齢化し、障がいを負うことで新たなケアの対象になると考えられます。そのため、地域包括ケアの担い手として、重要な役割を占めるでしょう。



❖ 3 介護だけじゃない！地域包括ケア社会への変化

今現在、特に重要な課題として、高齢者の介護が地域包括ケアのテーマとして取り上げられています。しかしこれは、他の様々な生活課題に関しても考えられています。例えば、

- 子どもたちの健やかな成長を実現するケアシステム
- 多重債務などの生活困窮者の自立を支えるケアシステム
- 日本への移住者など言語面で困難を抱える人たちのケアシステム

などです。

これからの時代、わたしたちは「地域包括ケア」という考え方で、市民活動をやっていくことが大切となります。それは、社会全体で作るセーフティネットを作るという考え方です。



● 共助を中心とした社会づくりへ

そこで脚光を浴びるのが、「公助から共助」へ、という考え方です。

従来は、公共団体が行うサービスが市民生活を支えるもの、というイメージが一般的でした。そのため、行政機関はどんどん業務の範囲が拡大し、税金だけでは事業を賄えなくなるおそれが出てきました。そこで、自分たちの手で自分たちのくらしを支えるという、共助の考え方が注目されはじめました。

共助は、ボランティアやNPO、地縁組織などが中心となり、自分たちのコミュニティに属する人達をフォローしよう、という考え方です。現在、「新しい公共」として国が進めている方針も、この考え方に基づいて展開しています。

● サポートセンターでも、セーフティネットづくりを進めています！

まつやまNPOサポートセンターでは、「NPOによる市民生活の何でも相談屋さん」を目指して、このようなセーフティネット作りに取り組んでいます。それぞれのグループが良いところ、得意なところを持ち寄って、お互い支え合える関係を作り、そして市民一人ひとりのくらしをサポートする社会を作っていきたいと考えています。

コラム まつやま市内の被災者支援 交流会を開催しました！

東日本大震災から、8か月が経過しようとしています。被災地では仮設住宅も建設され、復興が進んでいますが、それでもなお続く原発の放射能汚染や、その後の生活再建などがままならない状態が続いています。

今、被災地から遠く離れ、この愛媛県に暮らしている人も少なくありません。そんな皆さんをサポートする活動が、松山を中心に行われています。

❖ 1 まつやまでの被災者支援活動

震災発生以降、愛媛県に避難して来られた方は、百数十名ほどおられるといわれています。その多くは親戚や知人を頼り、公営住宅に入居された方々でした。何の準備もする間もない避難のため、見舞金だけではすべての環境を整えることも難しく、生活に必要な物資に困る暮らしを送られていました。

ある日、まつやまNPOサポートセンターに、被災者の方から一本の電話が入ります。「避難先に冷蔵庫と洗濯機がなく、赤ちゃんのケアに支障が出ている」という相談でした。そこからセンターでは、NPOの方々

に呼びかけて、要望のあった支援物資を提供する活動をスタートさせました。

そこで、より活発に支援活動を行えるよう、ネットワークを立ち上げる必要性があると感じるようになってきました。



支援物資の仕分けと被災者の受入



❖ 2 東日本大震災がんばろう支援ネットワークまつやま

こうして設立されたのが「東日本大震災がんばろう支援ネットワークまつやま」です。

まつやまNPOサポートセンターが事務局となり、NPO11団体が集まって、愛媛に来られた被災者の方々のサポートをしています。多様な分野の団体がネットワークを構成することで、メンタルヘルス、難聴者、子ども、ペットなど、暮らしに関わる様々なニーズに対応できるようになりました。

これらの団体のネットワークを活かし、被災者の方々からのニーズに応じて、衣服、自転車などの生活用品の提供や引越しのお手伝い、家具の修理などを行うことができました。行政では対応ができない部分をNPOが連携して個別に対応できたことは、NPOの面目躍如といったところです。これらの活動を通して、NPOの持つネットワーク性と柔軟性が、効果的に発揮できることを再認識していただくことになりました。

やがてこのネットワークを運営するなかで、差し迫った生活支援だけでなく、被災者の方に笑顔でいてほしいという思いもでてきました。そこで、被災者の方々が交流できる場を設けようと、交流会を開催することになりました。

❖ 3 被災者交流会を開催しています



いもたきをみんなで作る

第1回の交流会が開催されたのは9/19のことです。「ようこそ愛媛へ交流会」と題し、愛媛の郷土料理である「いもたき」や「鯛めし」をボランティアの人たちと一緒に作り、ひとときの楽しい時間を過ごして頂きました。交流会終了後のお見送りの際に、ある男の子が「(交流会の場に)もっといたい」と残念がっているのが印象的でした。

また今回の交流会には、地元のだし・かつおぶしメーカー2社からお土産品のご提供もいただきました。お越しになられた皆さんからは、「とてもありがたいです、助かります」と喜んで頂くことができました。

そして12月には2回目の交流会を予定しています。餅つき大会を行い、みんなで楽しんで頂きたいと思っています。

広報力をグ〜ンと高める「伝えるコツ」講座を開催します

● 広報をみっちり学んで、来年から集客・宣伝上手になりませんか？

このプログラムは、NPOの広報力を向上させることを目的として、ほぼ1日かけてみっちり「伝える」ことを学びます。全国各地で開催されており、この講座からは多くのPRの実践者が輩出されています。

● 参加者に限り、PR必携テキスト3点セットをプレゼント！

- ① PRのプロ(株)電通の経験やノウハウをまとめた「伝えるコツ」
- ② PRを行うための連絡先データや実務内容をまとめた「届けるコツ」
- ③ インターネットを使ったPRの基本をまとめた「広げるコツ」

※本セミナー以外では配布いたしません。

● 募集概要

日 時 平成24年2月18日(土) 10:00~16:00

場 所 松山市男女共同参画推進センター会議室5(松山市三番町6丁目4-20)

参加費 1,500円

定 員 40名(先着順)

お問い合わせ・お申し込みは まつやまNPOサポートセンターまで！

❖ 1 決算チェックリスト

申請をしている団体さんのうち、3月に決算を迎える団体さんは、愛媛県内では全体の8割を越えます。ここでは、決算の時に最低限押さえておくべきポイントをご紹介します。

- ☐ 決算書を作るために前提となる、領収書は全て手元にあるか？
- ☐ 手持現金や通帳預金と、帳簿上の現金は一致しているか？
- ☐ 現金過不足や、雑収入・雑損となっている金額について、
内容が判明したか？
- ☐ 収入(特に会費や寄付金、利息等)や、支出の集計漏れはないか？
- ☐ 未精算の支出の金額と支払時期を把握しているか？
- ☐ 既に、支払期日が経過しているものはないか？
- ☐ 収支計算書の名称は、活動計算書に変更されているか？
- ☐ 所管庁への提出、総会、納税等の期限を把握しているか？



全てを一気に終わらそうとしてしまうと、どうしても時間がかかってしまい、作業がづらくなってしまう。計画的に少しづつ処理をしていくことが大切になってきます。分からないことがありましたら、お気軽にまつやまNPOサポートセンターまでお問い合わせ下さい。

❖ 2 ワンポイントアドバイス～年度末に苦労しないために～

会計についてのコラム第3弾です。今号は、「決算書作成時にサポセンによくある問い合わせ」についてお話しします。サポートセンターには、各種の相談がよせられます。過去にサポートセンターに相談のあった事例について紹介します。

・現金と帳簿が一致しない。どうしたらいいか？

→まずは、原因究明をして下さい。現金の数え間違いや領収書の集計などの単純ミスが考えられます。それでも一致しない場合は、雑収入や雑損失として処理することとなります。

・決算日を迎えたが、まだ会費を支払っていない会員がいる。この場合どうすればいいか？

→原則として、その年の会費は、その年のうちに納めてもらうこととなります。会費が入金されることが明らかに分かっている場合は、決算書に計上するといったルールを決めてはいかがでしょうか？

・〇〇の支出は、何費として処理したらいいか？

→「必ずこの勘定科目にしなければならない」と決まっているものではありません。世間一般的に通用する名称や団体の会員が分かる名称を使用し、一度設定したら変更をしないことが重要です。例えば、去年は消耗品費だったが、今年は備品費となるのはいいけません。

・決算書はこの表示形式であっているでしょうか？

→NPOの決算書は現時点で、明確に定まっている形式はありません。総会で提示したり、市民の方々に見てもらうときにわかりやすい表示であれば構いません。NPO法人会計基準が策定されましたので、そちらの表示形式を利用してみるのも一つかもしれません。

・NPO法人会計基準は今期から適用しなければいけないですか？

→必ず適用しなければならないというわけではありません。ただ、適用することが可能であれば、今期から適用してもらいたいと考えています。

お知らせコーナー

● 講座、イベント情報

【スマートな女になろう。～マイビジョンが未来を作る（コムズフェスティバル開催事業）】

女性のための目標設定&自分磨きプラン講座を開催します。

4月から、新しい自分を始めるきっかけにしませんか？

日 時 1月28日（土）13：30～ 15：30

会 場 コムズ会議室3

講 師 レックコンサルティングオフィス 大須賀泰昌さん

定 員 15名

参加費 500円（スィーツあり）



● センターからのお知らせ

●3月末までに松山市NPO登録をご検討下さい！

松山市市民活動推進基金の補助金は、前年度3月末までの登録団体が対象です！4月1日以降に登録された団体については、平成24年度の応募資格はありません。

もし24年度に補助金の活用をご検討されている団体は、必ず3月末までに松山市NPO登録にご登録ください。

登録につきましては、まつやまNPOサポートセンターまでお問い合わせ

●サポートセンター年末年始のお知らせ

まつやまNPOサポートセンターは、

12月29日（木）～1月3日（火）までお休みとなります。
新年は1月4日（水）からの開所となりますので、
どうぞよろしくお願いします。



お問い合わせは まつやまNPOサポートセンターまで

☎790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ内

Tel:089-943-5790

Fax:089-943-5796

E-mail:pico@npo.coms.or.jp

URL:http://www.npo.coms.or.jp

まつやまNPO

検索